

伊庭について



琵琶湖東岸、かつて大中の湖や小中の湖に面した伊庭(東近江市)は、水郷集落の面影を色濃く残している。伊庭の名は、平安末には史料上にその名が見えるが、中世には近江守護佐々木六角氏の守護代の伊庭氏の本貫地であった。

伊庭氏滅亡後は徳永寿昌がこれを治め、元禄11(1698)年に旗本三枝領となり、陣屋が置かれた。伊庭港(能登川港)は近世にも湖東の海上交通の有力な拠点の一つであり、慶長6(1601)年には169艘の舟を数えている。

『滋賀県物産誌』(1880年)には、伊庭の総戸数496戸(農317戸、工37戸、商142戸)、人口は1984人である。農家は副業で麻布機業や採藻採泥、漁業、商業を営んでいた。特筆すべきなのが舟の所有の多さであり、大中の湖と小中の湖に面する伊庭では舟数482艘を所有した。この数は琵琶湖沿岸の他の集落と比べても際立って多かった。

かつての伊庭では伊庭川の本流が集落内を貫流していた。集落内には水路が縦横に張りめぐらされ、その多くが残る。昭和30年代まで田舟が水路を往来し、カワトが日常的に利用された。大中の湖と小中の湖の干拓が進んだものの、東部承水溝(通称「伊庭内湖」、面積49.0ha、平均水深1.2m)として内湖の水環境を残している。

見学のご案内

車でお越しの方は、謹節館前と正厳寺の駐車場をご利用ください。団体バスは事前予約の上ご利用ください。JR能登川駅東口でレンタサイクルが利用できます(青木自転車商会、田中自転車、500円/日)。なお、生活の場であるため、むやみに立入りはご遠慮ください。

地元ガイドツアーの連絡先(要事前申し込み)

内容: 約2時間(伊庭城址 - 妙楽寺 - 岡八商店 - 船庄の舟着跡 - 金比羅神社と港跡 - 卯の時祭の乗降場 - 正厳寺 - 妙金剛寺 - 大瀬神社と仁王堂をめぐるコース)

その他: 詳細は予約時におたずねください。

予約の連絡先
伊庭町自治会
〒521-1235 滋賀県東近江市伊庭町2016
TEL: 0748-42-0362

発行: 東近江市
〒527-8527 滋賀県東近江市八日市緑町10番5号
電話 0748-24-1234 / IP電話 050-5801-1234

発行日: 平成29年3月
協力: 伊庭町自治会、伊庭庄の歴史を語る会

編集: 山口敬太(京都大学)
デザイン: kicodeign(田内晶紀子)

表紙イラスト: 渡辺瑛(画)「静かな静かな風景」(東京新聞出版局、1976年)



田舟に乗っておでかけ(昭和30年代、村田平氏撮影、「きぬがさ百話2」)

水とともにある 伊庭の暮らし

伊庭の集落の内部や周囲には、カワやホリと呼ばれる水路が縦横に張り巡られていた。いくつかは埋め立てられたが、今もその骨格は残る。家々には「カワト」とよばれる水路へ降りる石段、洗い場が今も数多く残り、往時の水の暮らしを物語る。

カワやホリの水は、かつて飲用のほか、日々の洗い物や風呂に使われ、人々の暮らしには欠かせないものであつた。

明治時代には集落内の400を超える家々の敷地のほとんどが水路に接し、1軒に1艘の割合で田舟を所有していた。内湖は重要な交通路であり、また集落周囲の水田の多くは低地の湿田で、どこへ移動するのにも田舟を使つた。田舟は昭和30年代まで使われ、昔をよく知る住民の方は「稻を持って帰ってきて、もみやら藁やらなんでも舟ばっかりやつた」という。集落内の水路は田舟がすれ違えるくらいの幅があつた。また、田と家の行き帰り、ホリでおかず用に魚を手づかみで捕ることもよくあつたという。

昭和30年頃まで、湧き水が豊富でカワの水が清らかであった伊庭では、井戸の水が金気が多かつたこともあり、人々は深夜か早朝に清澄な水を汲んで生活に使用した。「飲んだり洗うのもカワばかりやつた」と教えてくれる方もいる。また、多くの



田舟の上から水中の稲刈り
(昭和28年9月の台風で小中の湖干拓地が水没)

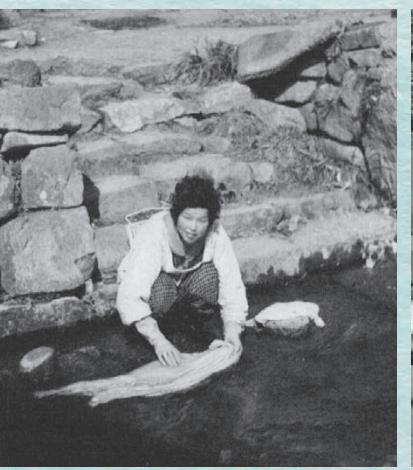
家ではカワトに加えて、内湖などで捕つた魚を活かしておくるためのイケスが設けられていた。イケスの中に鯉を放しておいて、祝いや大切な来客の際に締めて食した。住民の方々も子どもが石垣屋敷持ち」という言葉が伝わるところはよく魚つかみをしたと言う。石垣が多く残されている。伊庭には「石垣屋敷持ち」という言葉が伝わる

とおり、水路の石垣はそこ住む住民によって積まれた。また、「岸建ち」というように、家々も川沿いの石垣ぎりぎりに建つものが多くみられる。田舟の木材を再利用した舟板塀の家や蔵も所々にあり、水郷ならではの景観をみることができる。

カワとともにある暮らしの記憶は今も息づいている。



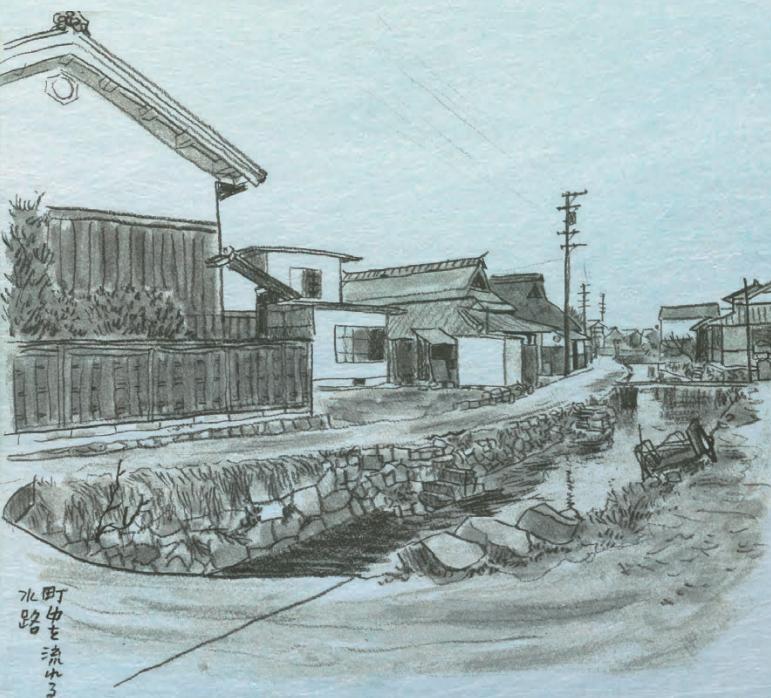
イケスと田舟のある町並み(住民提供)



川で洗濯のすすぎ洗い(住民提供)



川は子どもの遊び場だった(昭和55年、中川真澄氏撮影)



内湖湖岸の集落
水路が縦横に走る

伊庭の水辺景観

水辺の郷 伊庭をめぐる

伊庭内湖



③ヨシ原と内湖

伊庭集落の家々は水路を通じて内湖につながっていた。内湖は漁業の場であり、藻や泥など田の肥料を得る場であった。また大中の湖沿岸の集落への交通路でもあった。内湖近くには、舟着場や多数の田舟を係留する舟溜まりの跡が残る。
(写真は昭和30年代半ば)

⑤卯の刻祭と乗降場

昭和9(1934)年まで、伊庭祭り・卯の刻祭の舟渡御(ふなとぎよ)が行われていた。現在石灯籠のある乗降場で丸子舟に神輿を乗せて、神職や郷主らは田舟に乗り、卯の刻(午前4時)に郷頭野(ごずの)に渡った。
(写真は昭和50年代半ば)



①伊庭城址と堀割

近江守護代の伊庭氏の館跡と伝わる。陣屋跡である謹節館を取り囲むように堀がめぐる。明治以後、陣屋跡は伊庭村役場や伊庭尋常小学校として利用された。戦後すぐに建て替えられたのが現在の謹節館であり、今も地区の集会所として活用されている。



⑥正厳寺と田舟

元文4(1739)年の妙楽寺の転派の際に、仏光寺派に残った門徒が建てた寺である。境内に水利殉難の川原崎助右衛門の顕彰碑がある。助右衛門は、織田信長に伊庭川の用水確保を嘆願割腹し、信長はその願いを聞き入れたと伝わる。現在も毎年、助右衛門の追弔法事が行われている。



⑦妙金剛寺と妙金剛寺川

妙金剛寺は宝亀2(771)年に建立された際には伊庭山の山中にあった。安土間答の主役・貞安上人が住持した。徳永寿昌による再興時に現在地に移転された。妙金剛寺川は伊庭川の排水路として文禄3(1594)年頃徳永寿昌が開削したと伝わる。今は少なくはなったが初夏にはホタルが飛ぶ。



⑧大濱神社と仁王堂

保元3(1158)年に勧請された大濱神社は、伊庭氏をはじめ代々の領主や氏子らに尊崇されてきた。仁王堂(神輿庫)は鎌倉時代の仏殿であり、中世初期の仏堂建築の様式をよく残す。今も一年を通じていろいろな祭礼の主たる舞台となっている。

②妙楽寺と四力寺
寺伝によれば藤原鎌足の長子・定慧により持統3(689)年に開創。元弘年間(1331-3年)に了念が再興した(真宗仏光寺派)。元文4(1739)年に本願寺派に転派した。寺宝として絵糸図が残される。毎年8月11-12日に糸図まいりが行われている。



- おすすめコース
(所要120分)
- ①伊庭城址
 - ②妙楽寺
 - ③伊庭内湖
 - ④金刀比羅神社と伊庭港跡
 - ⑤卯の刻舟渡御の乗降場
 - ⑥正厳寺
 - ⑦妙金剛寺
 - ⑧大濱神社と仁王堂

